

教職課程センターだより 第12号

発行日 2014年11月24日

巻頭言—「教職の先生」って誰のことですか？

教職課程センター長 山本敏郎

国立大学の教員養成学部勤めていた頃の話から始めます。国立大学の教員養成学部というと、多くの方は、教員養成に熱心な学部と思われていることでしょう。しかし、約100名の教員のうち、教員実践と密接なかわりのある教育学や教科教育を専門にする教員は20名程度で、80名は法学、文学、物理学、音楽などの学問・芸術・スポーツの専門家です。教員養成学部の質はこの人たちが教員養成にどれくらい熱心になるかに左右されます。

かつての2人の同僚の話です。人物が特定されないよう、ご本人のそれとは異なる専門家ということにしておきます。ある会議か集会の席上、物理学の先生が「教員養成用の物理学とそうではない物理学の二つがあるわけではないから、ぼくは教員養成用の授業はしない」と発言されました。続いて、国文学の先生が「小学校や中学校で国語を教えるにあたり、少なくともこういうことは知っておいてほしいことを教える科目もある。そのために教科書を読んだりもする」と発言されました。

学問のあり方としては物理学の先生の言うとおりでありますが、こういう考え方の教員が多くなると、教員養成学部は廃れていきます。私立大学の一般学部でも同じです。教員養成は「**教職の先生**」—教職に関する全学的なセンターを置いている大学では「**センターの先生**」—に任せて、自分の研究に専念する教員が多くなると、教員養成課程は邪魔者扱いされます。

さて、その「**教職の先生**」ですが、それは誰をさすのでしょうか。教職に関する科目を担当する2~3名の教員や、「**センターの先生**」でしょうか。

教員養成課程の「教科に関する科目・彫塑」を担当する著名な芸術家先生が、「わたしは彫刻家なので彫刻の指導にしか関心がないから、教育実習の指導はしない」などと言われることがありました。この芸術家先生は大きな勘違いをしています。大学がこの芸術家先生を採用したのは「教科に関する科目・彫塑」の担当者としてふさわしいと判断し、教員養成課程を担うことを期待したからであって、著名な彫刻家だからではありません。

少なくとも、教職課程認定の専任教員として登録された教員は、公式には「**教職の先生**」です。教育実践が専門ではなくても、先の国文学の教員のように、教員に必要な国文学の基礎を教えるとか、そのためのカリキュラムを考えると、学校で教えられている文学がどういうものかを検討するとか、関与の仕方はいろいろあります。これもかつての同僚ですが、岩石の研究をしている（これは本人です）地学の研究者が、「将来教員になる学生たちなので、石にさわると子どもにたくさん触れてほしい」と言っていました。その後、この先生は付属学校の校長を2期務められました。こういう教員が増えると教員養成課程は活性化していきます。

今年度は、4年生の努力が実って、大学としてはかつてない現役合格者を出しました。2008年に開設された子ども発達学科では、教育実践研究を専門にしているわけではない教員たちの、それぞれの専門を生かした教職課程への関与がありました。来年度から、東海キャンパスの開設を機に、東海キャンパスにも教職課程担当教員を配置します。「**教職の先生**」たちの努力で、これからも教員養成課程をさらに充実させていきたいと考えています。



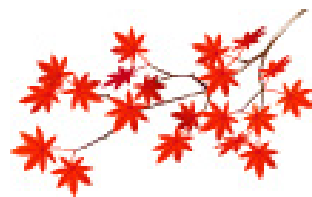
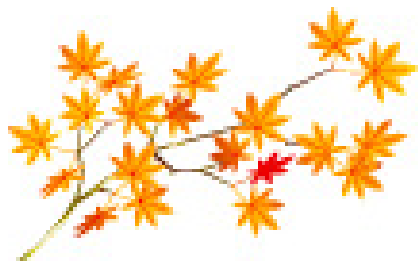
フィールドワークを通して

子ども発達学部心理臨床学科 3年 和久田 弥生



私は、フィールドワークを通して大きく3つのことを学んだ。1つ目に「どうやって人を引き付けられるように話すか」ということだ。私は、将来教育関係の仕事に就きたいと考えている。だからこそ、石舞台古墳で案内をしている方の話し方がとても印象に残っている。案内をしてくださった方は説明をしながら、ところどころ聞き手に問いかけをして、聞き手の興味や疑問がうまれるように話していた。これは普通の講義でも言われることだが「教師がいい授業と満足する授業ではなく、生徒がいい授業と感じなければ、いい授業とは言えない」という考えにつながる。しかし、いい授業といってもどんなものかいい授業なのかは人によって違う。だからこそ大学生である今たくさんの方の話をきいて魅力を感じる話し方を真似ることも授業作りをする上で大事なことだと考える。2つ目に「行きたいところを地図を見て探し、道順を計画することの楽しさ」である。3つ目に「誰も行くことができる場所ではない」ということだ。これは、帰りのバスで先生がおっしゃったことだが、私たちは当たり前のように見学することができる。しかし、それは障害のある人にとって簡単ではない場合があるということを、私は参加上では考えることができていなかった。この言葉は私にももの凄く衝撃を与え考えるきっかけとなった。私は今回ただ見てきて感じて知ることだけではなく、疑問と課題がうまれたフィールドワークになったと感じている。





飛鳥路を訪ねて

子ども発達学部

小林しんじ

秋風が

すっと

吹き抜けていく

山々には

色づきはじめた

木々が輝き

広がった田園には

稲穂が実り

畑にたなびく

野焼きの煙

古代のロマンを求めて
明日香を自転車で巡る

左右の顔を持つ大仏に

見つめられ

石仏の武者を偲ぶ

一時の巡り会いが

一時の安らぎづくり

流れる雲の下

ああ

喜びがあふれてる





教員採用試験、史上最多の合格者！

— 2015年度教員採用試験（2014年実施）の結果について —



今年の教員採用試験の合格者（延べ人数・補欠を含む）は、現役生37名、卒業生20名の計57名となりました。これは日本福祉大に教職課程が設置されて以来、史上最高の実績です。現役合格数は昨年を大きく上回り、初等専修23名、中高14名という内訳です。初等、中高ともに実績を大きく伸ばしました。卒業生は、2007年度卒1名、2009年度卒1名、2010年度卒2名、2011年度卒7名、2012年度卒2名、2013年度卒7名という内訳です。自治体別にみると、愛知県の19名、岐阜県6名、神奈川県5名（川崎市を含む）、富山県4名、長野県4名、静岡県3名、東京都・石川県・宮崎県・滋賀県各2名など全国19の自治体に合格しました。従来、難関と思われた九州・宮崎県で合格したことは特筆されます。また、これまで合格者を出してきた名古屋市が合格者ゼロという残念な結果となりました。

今年度の教員採用試験の特徴は、第一に、現役生の合格者数が大きく伸びたことです。第二に、岐阜県や富山・神奈川県などに大量合格したことです。第三には、社会福祉学部生が健闘し5名の合格者を出したこと。その中の一人は超難関の高校福祉で現役合格しました。第四には、愛知県では、今年から特別支援教員を目指す者に対して特別選考試験が設けられ、本学では中学社会を基礎免許とする受験者が減少し、特別選考での受験者が増えました。その結果、一次試験合格者の顔ぶれにも、従来とは異なる変化が現れたことです。

今回、初等教育専修では現役生が大量に合格しましたが、その背景には教友ゼミの仲間を中心とする自主的な学び合いがありました。自らへの投資と考え、民間の教員試験対策講座を受講するなど特別の努力をした学生もいました。合格者の顔ぶれを見ると、教友ゼミに最後まで参加した学生が多く、加えてサークル活動や学校支援ボランティア活動などに積極的に取り組み、現場経験や社会的経験を積み重ねた学生たちです。

愛知の特別選考試験は、大学での学びを生かして受験できること、受験勉強が効率的にできること、自己アピール力や文章力のある学生に有利などの利点が挙げられます。しかし、二次試験には教科専門Ⅱがあり、結局、社会科で点数がとれないと合格ラインに達することができません。教科専門を疎かにせず、しっかり対策を講ずることが肝要です。

いま、教育現場は大量退職期をむかえ、特別支援教育では教員採用増や特別支援教諭免許を持つものを優遇する措置も採られ、競争倍率も低下する傾向にあります。ここ1、2年がチャンスです。後に続くみなさん、先輩の合格体験や失敗に学び、困難に挫けず、仲間と支え合いながら、自分の夢を実現するために精一杯の努力をしてください。先輩たちの実績が示すように、努力は必ず報われます。（文責：高須）

<教員採用試験合格状況>（中高のみ）

※は補欠合格者1名を含む

卒業年度	課程登録者数	1次合格者数	2次合格者数	既卒者合格者数
2014	94	21	14※	12
2013	117	11	9	6
2012	128	14	10※	19※



合格体験記

子ども発達学部子ども発達学科初等教育専修 4年 荻谷月香

愛知県・浜松市 合格

～勉強～

使用教材…東京アカデミーオープンセサミ（赤・青・出題科目別過去問集）、時事通信社Twinbooks、大原（LEC）暗記ブック、協同出版精選実施問題、教員養成セミナー直前問題集、小学校全科30日完成ブック、ランナー、愛知県過去問題集、浜松市過去問題集、高校受験テキスト

時期,時間…3年生9月～、2014年1月～東京アカデミー全日制（3か月）・1日6～12時間

とにかく「教採」と名のつくテキストを店頭で読み、その内容を把握し、やり遂げられると思ったものを購入後最低3回は解くようにしました。小学校全科9科目＋教職教養4科目をやりこなすにはかなりの時間と労力がかかります。長い目で見た計画と短いスパンで見た計画を随時立てながら進行し、“1か月で〇〇の教科を8割に上げる”というような具体的な目標を掲げて進行状況を振り返りました。

【効果的な方法】平日…まんべんなく科目を割り振る・

休日…不正解の箇所のみを復習＋試験練習（過去問・模試・予想問題集）

～予備校と独学～

私は“中途半端”という言葉が何よりも嫌いです。4年間スイミングスクールのインストラクターをした経験の中で、教える人が中途半端だと、一心になる子どもたちの足かせになるだけだと痛感しました。学校の先生になろうとする努力そのものが中途半端であるなら「ハンパ」な教師にしかたえません。そもそも試験では見抜かれ脱落します。私は“ここまでやった”という予備校生としてのプレッシャーを自分に課し、お金も労力も時間もその時のすべてを教員採用試験にかけ、3か月間通い続けました。予備校には、安定しているという理由で教育公務員を目指している30ちかいフリーターの大人の方が多く勉強時間は学生以上にとれていたと思います。しかしその人たちの中でも合格していたのは3割以下です。つまり「予備校に通っているから…、勉強に専念できる環境があるから…」そんな理由で合格はできないということです。たしかにプロの講師の授業を聞き、決められたプログラムを遂行していく日々で得たものは大きかったです。しかし、それだけで安心しきるところに予備校の落とし穴があります。せっかく得たものを必ず自分の中で物にしていく努力を通おうと独学であろうと惜しまないでください。

～おわりに～

どんな勉強方法をしようと、時間をかけようと一番の勝利の道は“甘えないこと”に尽きます。

「今日は疲れたから明日やろう…、昨日これだけやったから今日は休もう…」そんな甘さで合格は遠のきません。このころの私は、22年間培ってきた自らの人間性と個性にまったく自信がなく、とにかく勉強への努力を惜しまないことで人物重視と言われる試験への強みへと繋げようと必死でした。

その後の教育実習で子どもたちとの出会いにより「教師」と言う職への希望がより一層強まりました。

“あの子どもたちのような子どもたちの先生になりたい！”その思いで苦しい毎日に耐えました。教員採用試験に受かるということは一生の安定を手にし、且つ子どもたちの夢を共に追いかけて教師自身も一生涯夢を見続けられる職に就けるということです。3年間自由に過ごした時間があるならばせめて残りの時間は自分の一生に真剣に向き合ってください。生半可で受からないことだけはこの場にて断言させていただきます。強い覚悟と信念をもち教員採用試験に挑んでいく後輩を心から応援しています。





合格体験記

社会福祉学部社会福祉学科4年 吉田歩美

私は今年度愛知県と栃木県の教員採用試験を受験し、愛知県“高校福祉”で合格を勝ち取ることが出来ました。

◎一般教養と教職教養 ～ 短期集中。確実に取れるものを取る ～

一般教養と教職教養の勉強を本格的に開始したのは、教育実習が終了した6月からでした。それまでは参考書などを買ってはいたもののやる気が起きず、眺める程度でした。勉強をするうえで“どこでやるか”はとても重要です。私の場合、下宿しているアパートでは誘惑が多く、まったく勉強が手につかなかったのでノートや参考書を鞆に詰め込みゼミ室に通いつめました。ゼミ室は静かで、自分のゼミの人しか来ないのでお勧めです。この時期、私たちのゼミ室には連日教採を受験する人が集まっていました。勉強法に関して、教職教養はとにかく暗記です。参考書の一つに絞り、その中身をひたすら頭に叩き込んだり、同じ教職の仲間と問題を出し合ったりして覚えました。一般教養は愛知県の場合、毎年全分野から幅広く出題されるので時間をかけることはせず、得意な英語や数学、歴史などを振り返る程度しかしていません。確実に点数を取ることが出来る問題を取りに行きました。

◎専門科目「福祉」 ～コツコツ。先輩と仲間に頼る ～

「福祉」は他教科と違って専門の参考書が発売されていません。そのため過去に愛知県を受験した先輩方から過去問をいただき、出題の傾向を掴みました。その他はひたすら教科書を読みました。また、私は一年生の春休みから福祉科教員を目指す学生で立ち上げた「福祉教育研究会八英桜」に参加していました。早い時期から指導案作成や模擬授業、先輩との交流を持っていたため、過去に教材研究をした内容などが頭に入っていました。専門はコツコツ積み上げてきた成果もあり、教採直前にあわてて勉強することはありませんでした。

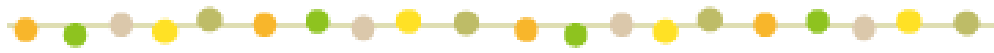
◎面接試験 ～日々の出会いがネタ。学生を猛アピール ～

愛知県は一次に集団面接、二次に集団討論と個別面接があります。人物重視の愛知県ではこの面接試験が非常に重要です。本番で私が意識していたことは“とにかく言いたいことを言い切る”です。今年度、愛知県で福祉科を受験した人のうち、私（日本福祉大学からの受験者）以外は全員現役の講師でした。講師の方々は現場体験に基づいた理論的かつ根拠のある話で自分をアピールします。それに対し私は、学生ならではの視点を大切にしました。一人くらい夢や理想を語ってもいいんじゃないか、その方が面接官も「この人に新しい時代を任せてみたいな」と思ってくれんじゃないか、とポジティブ過ぎるくらいの気持ちで臨みました。

◎最後に ～自分らしさを忘れずに ～

私は教員採用試験合格の勝因を「これまでの出会いと経験」「メリハリ」「仲間の存在」と考えています。大学での4年間サークル、バイト、ボランティアなどで多くの出会いと経験をしました。それらが面接で話すネタになり、人前で自分の言葉で話をする練習になっていました。

教員採用試験は非常に狭き門であり、受験者の中には何年も講師をしている方も大勢います。正直私は教員採用試験を受けてみて、これを来年一からまた受け直すのは御免だと思いました。学生だからこそ出来るアピールや自分らしさを忘れず、適度に休みを入れつつ合格を目指して欲しいと思います。



合格体験記

岐阜県特別支援学校種合格
子ども発達学部心理臨床学科4年 柘植茜音

☆想像してみてください…。

あなたが教師になり子どもたちと過ごしている姿を…。またはあなたの理想の教師像を…。

「こんな教師になりたい。子どもたちにこんなことを伝えたい。」このような自分なりの理想を教採用試験に向けて取り組んでいく中で大切にしてきました。それは、モチベーション次第で自分自信の取組みの姿勢が変わってくるからです。教師を目指すみなさんに、私の経験を少しでも役立てることができたら嬉しいです。

●学校ボランティア

学校ボランティアに参加することをお勧めします！ 座学で学ぶことはもちろんのことですが、現場で実際に活動すると、より学びが深まります。自分自身、学校ボランティアに行ったことで考えさせられることがたくさんありました。その経験が勉強や面接に繋がりました。

●勉強

①受験する都道府県の過去問を解く

～過去問をただ解くだけではもったいない！ 過去問を解く際に私が大切にしていたこと～

- ・間違えた問題にマークをつけ、繰り返し解く。
- ・出題傾向を分析する。(どの分野からどれくらい出題されているのか)
※分析しているうちに、その都道府県がどんな分野が好きなのかわかる。
- ・時間を計って解く。(実際の試験の制限時間より少し短めに制限時間を設定する)
- ・正解・不正解にプラスα。(答え合わせの際に余裕があれば、出題問題の周辺部分のこともついでに確認する。正誤問題のときの「誤」選択肢ではどこが間違っているのかも理解する。)

②模試を活用する

～受けた後の直しが最高の勉強もと～ ※私は「時事通信出版局」の模試を受けていました

- ・解説をとにかく熟読する。
- ・期間をあけて繰り返し解く。(制限時間を前回解いた時間より短い時間で解く)
- ・問題の中で面接に活かせる話題は頭の片隅に入れておく。(特に教育時事問題はネタになる。)
- ・自分を分析する。(自分の弱点をつかみ、弱点に取り組む)

●面接(準備)

～自分のことを理解し、相手にどれだけコンパクトに自分自信を伝えられるか～

①面接ノートを作り、自分の考えをまとめる

私が作った「面接ノート」とは、自分の考えや思いを端的に書き残したり、本や仲間から新たに発見したりしたことを書き残したノート。

※たとえば…自分の長所・短所、理想の教師像、子どもに伝えたいこと、教育ニュースなどなど

②教師を目指す様々な人と一緒に練習する

人と一緒に練習することで、客観的に見た自分を知ることができます。また、仲間や講師の方の考えを聞くことで、自分にはなかった考えや素敵な意見に出会うことができます。同じ目標をもつ者同士で助け合ったり、刺激し合ったりすることで一層有意義に練習できると私は感じました。



教員採用試験合格体験記 ～ゆっくと、マイペースにやってみました～

2011年度 子ども発達学部心理臨床学科卒業 高井香菜

大学4年生で初めて受けた教採は、十分に勉強できていない状態での受験でした。そのため、不合格は当たり前。日本福祉大学を卒業してから、講師として働くという選択はせず、通信教育で小学校教諭免許取得のための勉強をしながら、1次筆記試験に向けての勉強もしていました。その甲斐あって、1次試験合格は合格しましたが、2次試験は不合格……。私の受験した自治体は1次試験が合格すると、翌年は1次試験免除になるため、講師をしているときは2次試験を中心に対策をした。



筆記試験対策

- < 1 > まずは基礎知識を身につける。
用語やその意味についてとにかく覚える！先に問題を解いても、問題や答えの意味が分からなかったり、その問題の周辺知識を知らないままだったりするので、穴空きの部分的な知識になってしまう。
- < 2 > 問題を繰り返し解く。
間違えたところは、その度チェックし、問題の内容について確かめる。その問題に関わる周辺の知識も一緒に確認すると良い。
- < 3 > 受験する自治体の問題集を繰り返し解く。
自治体によって問題の傾向や出題の仕方は大きく異なる。受験する自治体が決まったら、過去問を繰り返し解くことで、出題傾向を掴めるため、何を重点的に学習したら良いのかが分かる。過去問は100点を取れるまで、そして説明できるまで解く。



面接・討論試験対策

- < 1 > 過去～現在～未来の自分について
面接で必ず尋ねられるであろう事柄は、しっかりとと言えるようにしておくこと。自分がどのような人間なのか、今までどのようなことをしてきたのか、これからどうなりたいのか、**そのためにどうするのか**……。自分自身と向き合ってください。
- < 2 > 仲間と面接練習する。
これは、自分自身あまりできなかったもので、反省として(´・ω・`)苦笑
気の知れた仲間と……。普段あまりかかわらない人と……。面接練習をして**面接慣れ**しておくと思えます。そして、**客観的に見た自分**を知ってください。さらに仲間と語り合って、たくさん褒め合ってください。

◎つぶやき|_°)ボソボソ…

- ボソ1：面接で志望理由（本心だけどこてこての面接用）を言ったが、面接官に納得されず、何度も突っ込まれました(;▽;)私が特支に興味をもった最初のきっかけがネガティブなことだったので言うのを避けていたのですが…。遂にそれを言って、だから自分はどうしたいのかを語ったら、やっと納得してもらえ、面接官の笑顔がこぼれました。（私も心の中で胸を撫で下ろしたことは言うまでもない(*´ω`*)
- ボソ2：面接はみんな緊張しているので、一生懸命やった多少のつまずきはOKだと思う。
・面接官はちゃんと見抜いてくれるので(*´▽`*)
- ボソ3：討論の前にメンバー分かっていたら、仲良くなっちゃって、作戦会議しましょーーー(∩´▽`∩)

・教採の内容は講義の中で出てくるので、毎回の講義・テストを大切に！（分かっちゃいるけどな～・・・）1回しっかりと聴いたこと・覚えたことは、もう一度覚えなおす時に速く覚えられるしね(^ ^)

・時間がある今だからこそできる経験をする。教育に限らずどんなことでも！ 大学生活の中でできる経験って、かなり貴重！教育現場では自分次第でどんな経験でもプラスに活かせる！ 私もこれから頑張るぞ、みんなも頑張れ～～～(´ω`)/





教育実習体験

子ども発達学部心理臨床学科 4年 村上 里佳

2週間の特別支援学校での教育実習を通して多くのことを経験し、たくさんの学びがありました。

特別支援教育ならではのティームティーチングであったり、豊かな教材やユーモア溢れる教具であったり、一つ一つのことが新鮮で大学では学ぶことのできないことが現場では多く見ることができました。

その中でも、子ども達との関わりの中でとても大切なことを学びました。それは、「障害名ではなく、子どもを見ること」です。授業をする上でも、充実した学校生活を送っていく上でも、子ども達一人ひとりと向き合うことがとても重要であると感じました。今、目の前にいる子どもがどのようなことに困難を感じ、どのような支援・指導をしていけばよいのか、子どもの実態を把握してしなければ、子どもの成長に繋がらないと思いました。そのためには、毎日、様々な場面での子ども達を"観る"ということが大切になってくると学びました。送り迎えの際に家庭での様子を聞いたり、他の授業の様子を知ったりすることで、子ども達を"観る"、小さなことでも変化や成長に気づきが持てると思いました。

困難を抱えてる子ども達に対して、支援・指導していくためには、幅広い知識と豊かな経験をすることで、自分自身が成長し続けることが重要だと感じました。



子ども発達学部子ども発達学科初等教育専修 4年 望月理恵

ルールは大切です。特に「学校」という集団生活の場では守らなければなりません。

小学3年生の2学期。学校にも慣れて自分の気持ちを発信できるようになった学級で、帰りの会でのとある発信が学級全体を揺らしました。HがRに対して「(授業間にある)休憩は、次の授業の用意をする時間だから絵を描いては駄目だ」と言ったら、Rは「いいじゃん」と絵を描き続けました。

他の子どもたちは「準備ができていれば、休み時間なのだから自由なはず」だと主張しました。しかし、問題はHの体験にありました。Hは1学期に、Rと同じことで先生に叱られた…と言うのです。これには子どもたちも困っていました。<自分は良いと思っていたが、もしかすると駄目なことなのか?> 学級が重い空気に包まれました。

結局、Rが「謝ればいいでしょ!ごめんね!」と強く言い放ち、他の子どもが納得しない中、Hは「すっきりした」と終わらせてしまいました。私もHが悪者になりそうな雰囲気になれず、次に移りました。金曜日だったことと、2人は一緒に下校する仲だということもあり、下校までの時間2人と話しました。Rは「すっきりしていない」、Hは「先生に確認したい」と話してくれました。

自分たちの学級なのに、教師1人の考えに左右されてよいのでしょうか。「みえない決まり」を守らせる適応指導ではなく、自分たちで生活のルールを作り出せる指導が大切なのではないかと考えた場面でした。

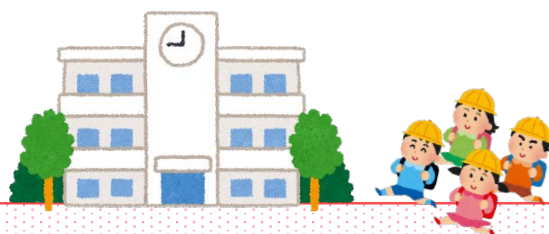


教育実習で学んだこと

国際福祉開発学部国際福祉開発学科 4年 石原千加

私が三週間の教育実習を通し机上の勉強では学ぶことの出来ない貴重な学習をしました。その中でも授業づくりには大変苦労しました。特に考えさせられたことは生徒理解の大切さです。授業を作る上でなぜ生徒観察が大切だということか実習前はあまり理解できずにいました。観察授業の際、生徒の様子を伺っていると、教師の問いに対して積極的に答える生徒、丁寧にノートをとる生徒、グループワークをすると他人任せになる生徒など様々な生徒がいました。またその中で英語の学力に差も生じていました。つまり授業を作る際はそのクラスの特徴や様子をきちんと考慮した上で作らなければならないことを知りました。実際に初めて授業した際、私なりに考慮して作ったものの、活動のときに私が思った反応が生徒から得られないということがありました。また同じ日に同じ授業を他のクラスでも行いましたが、そこでの反応はまた違ったものでした。生徒にとって効果的な授業を行うためには、生徒のことをきちんと理解した上で、どのような授業展開をすることが望ましいか、またどのような形式で行うことで意欲的に授業に取り組むことができるか等を考える必要があることを痛感しました。またよりよい授業を行うために教材研究も欠かせません。本時の学習内容が定着するような教材を用意することはとても大切です。その教材というのは身のまわりを見渡すことで面白いものがたくさんあります。教員は授業を行うことだけが職務ではなく、他にもやらなければいけないことはたくさんあり大変ではあります。やや時間がかかることではありますが、教員自身手を抜かずに行うことで、生徒から良い反応が返ってくる、それがやりがいでもあることを実習校の先生方から学びました。

三週間は思っている以上にあっという間でしたが、その中で学ぶことは多かったです。実習を通して得たことを糧に、今後教師を目指す上で活かしていきたいと思いました。



今後の予定

【2年生・3年生】

教員採用試験合格体験発表会

<中高・特支向け>12月6日(土) 13:30~16:30 1511教室

<小学校向け>12月18日(木) 13:30~16:30 1511教室

【1年生】

3月末 教職課程オリエンテーション

※日程については、年明けに予定されている在学生オリエンテーションの日程発表で確認してください。

3月24日(火)~30日(月) 課程登録期間(予定)

※上記オリエンテーションに出席後、課程履修費の納入及び課程登録を行ってください。